

# くじゅう地区管理運営協議会

## 令和3年度 活動報告



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

# 目次

<b>I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務</b>	
1. 長者原ビジターセンター利用状況	1
(1) 入館者数	1
(2) ハイビジョン映像上映回数	2
2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業	3
(1) 利用案内・電話対応及び国際化	3
(2) 館内展示および自然ふれあい事業	4
① 常設展示	4
② 企画展示	7
③ 自然ふれあい事業	9
④ 館内維持管理業務	11
3. 来館者アンケート結果	12
<b>II. 教育・普及啓発活動</b>	
1. 普及啓発活動	15
(1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動	15
(2) 広報活動	16
2. 環境教育活動	23
<b>III. 自然環境保全・調査活動</b>	
1. 自然環境保全活動	25
2. 調査活動	26
<b>IV. 登山道等管理活動</b>	
1. 登山道保全活動	28
2. 長者原周辺の美化清掃活動	29
<b>V. その他</b>	
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度	31
2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置	32
3. 長者原ビジターセンター改修工事への対応	33
4. 職員研修実績	34
5. 新聞掲載記事	36
6. 地域の概要	37
7. 運営体制	38

# I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

## 1. 長者原ビジターセンター利用状況

### (1) 入館者数

- ・令和3年度の来館者数は、117,584人であった（前年度比：約30%増）。
- ・入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度以前に比べると少なかったが、センター内での感染防止対策の徹底や登山等野外アクティビティの興味関心の広がりを受け、昨年度に比べると増加した。第1四半期は、5月に福岡県で緊急事態宣言の発令、熊本県においてもまん延防止等重点措置の適用がなされるなど全国的に感染が拡大し、入館者が少なかったが、6月のミヤマキリシマ開花期はほぼ例年通りとなった。第2四半期は8月のお盆休み前後に大雨が続き入館者が減少したが、9月に入り天気がよく暖かい日が続いたため、9月は過去最高の入館者数を記録した。第3四半期は10月の紅葉時期はほぼ例年通り、11～12月は積雪の影響もありやや少なめだった。第4四半期は1月～3月まで大分県・福岡県・熊本県においてまん延防止等重点措置の適用・一部地域で期間延長などがあり入館者が減少した。

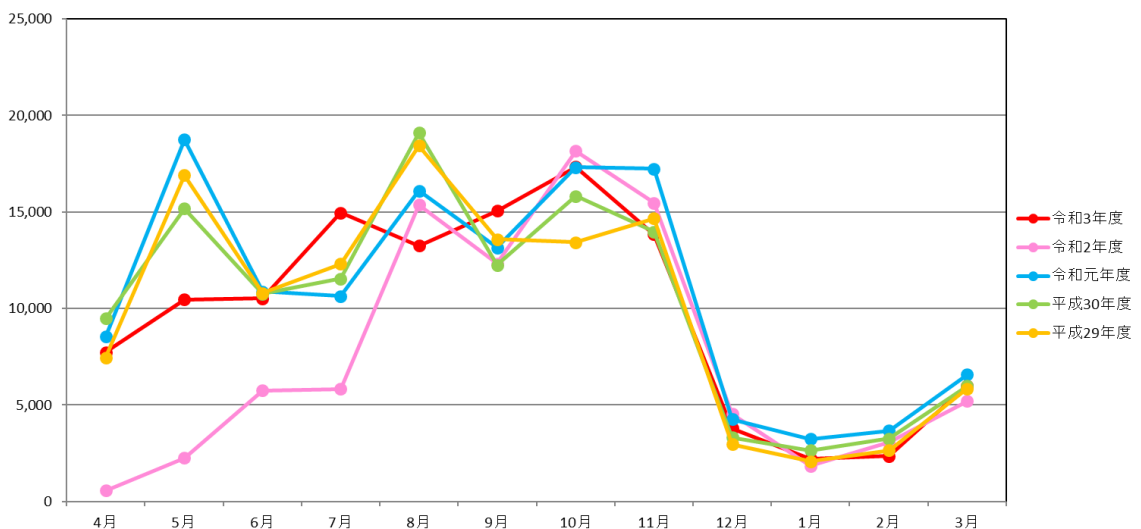


館内利用の様子

来館者数一覧表（平成29年度～令和3年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和3年度	7,730	10,474	10,532	14,969	13,256	15,065	17,333	13,841	3,797	2,227	2,354	6,006	117,584
令和2年度	578	2,269	5,750	5,830	15,381	12,331	18,153	15,475	4,537	1,853	3,060	5,206	90,423
令和元年度	8,551	18,756	10,873	10,641	16,102	13,161	17,324	17,234	4,263	3,239	3,671	6,574	130,389
平成30年度	9,482	15,179	10,759	11,536	19,103	12,252	15,820	13,986	3,315	2,657	3,262	5,986	123,337
平成29年度	7,472	16,905	10,798	12,310	18,444	13,596	13,438	14,658	2,964	2,082	2,650	5,846	121,163

来館者数推移（平成29年度～令和3年度）



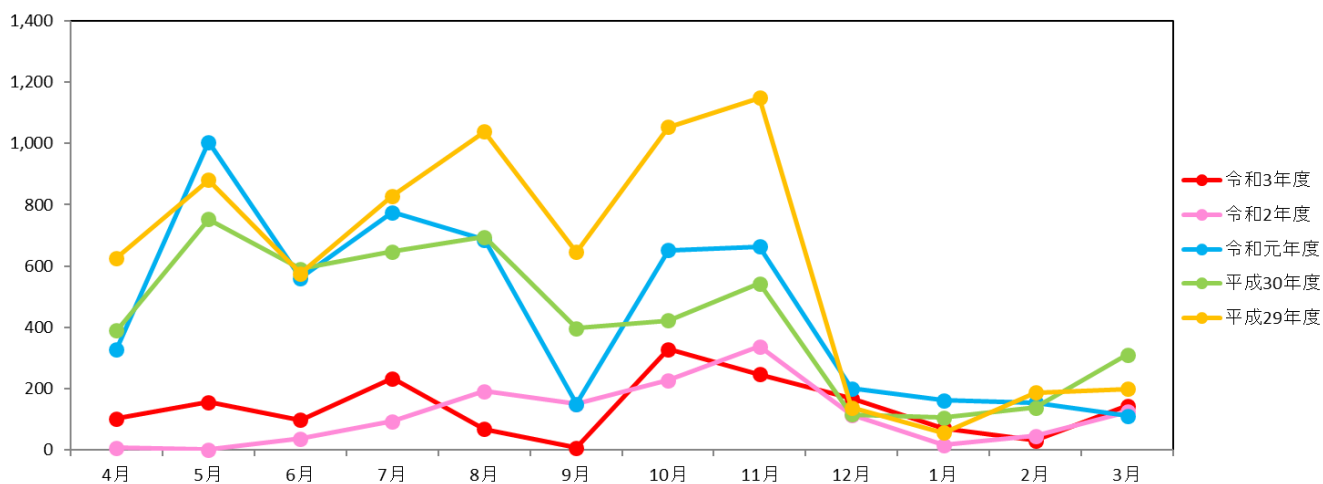
## (2) ハイビジョン映像上映回数

- ・令和3年度ハイビジョン映像上映回数は454回、延べ人数は1,647人で、人数は前年度に比べ23%増となった。コロナ前の令和元年度732回、5,446人と比べると、上映回数よりも視聴人数の減少が大きく、上映の際の人数制限の影響が見られた。
- ・海外からの渡航による来館者数がほとんどいなかったため、昨年度に続いて外国語字幕での上映は少なかった。

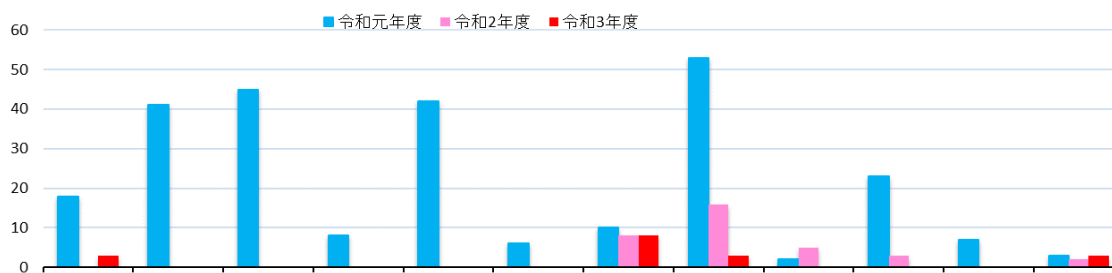
ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成29年度～令和3年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和3年度	102	155	97	233	68	6	328	246	168	71	30	143	1,647
令和2年度	6	0	37	93	192	149	227	337	114	15	45	124	1,339
令和元年度	329	1,004	561	775	685	149	652	664	200	162	154	111	5,446
平成30年度	390	752	590	647	694	397	422	542	115	105	138	311	5,103
平成29年度	626	880	575	829	1,039	645	1,053	1,149	137	56	187	199	7,375

ハイビジョン映像上映人数推移（平成29年度～令和3年度）



外国語上映人数内訳（令和3年度）

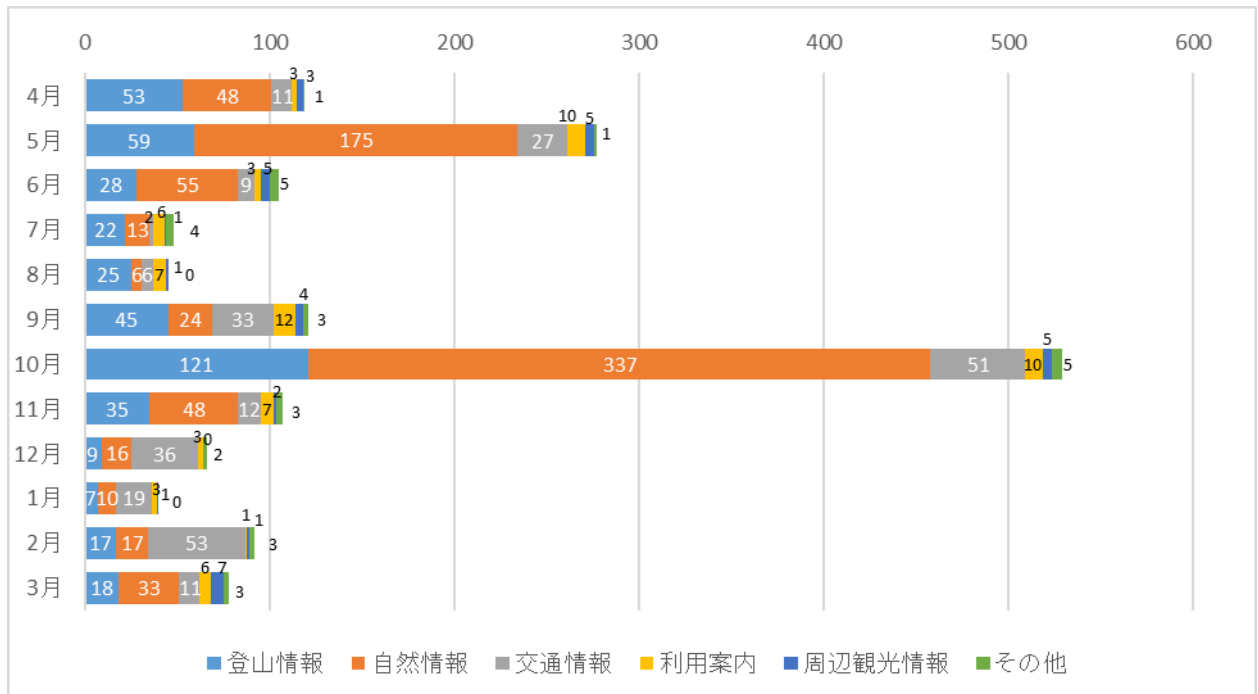


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和3年度	3	0	0	0	0	0	8	3	0	0	0	3	17
令和2年度	0	0	0	0	0	0	8	16	5	3	0	2	34
令和元年度	18	41	45	8	42	6	10	53	2	23	7	3	258

## 2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

### (1) 利用案内・電話対応および国際化

- ・ビジターセンター受付カウンターおよび館内にて、国立公園の利用案内や自然情報等の情報提供をおこなった。
- ・電話による問い合わせに対しても、受付カウンターでの対応と同様に情報提供をおこなった。5月～6月上旬（主にミヤマキリシマ情報）、10月（主に紅葉情報）には特に電話による問い合わせの件数が多かった。2月には積雪の状況についての問い合わせが多かった。



月ごとの電話問い合わせ件数と内容。5-6月の自然情報はミヤマキリシマの開花、10月の自然情報は紅葉の進み具合についてのものが大半であった。数値は問い合わせ件数だが、パート職員の対応した分が計数されていないので総数ではない。

- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を配置し、利用案内の国際化に努めた。
- ・受付カウンターに英語での対応ができることのほか、筆談でも案内できることを表示した。また、音声翻訳機「ポケトーク」を配備し、英語以外の言語にも対応できるようにしたが、利用はほとんどなかった。
- ・利用者によく聞かれるミヤマキリシマの開花や紅葉の時期を示したボードを作成し、来館者がわかりやすいよう工夫した。
- ・子どもでも楽しめるような館内アクティビティ（クイズラリー・スタンプラリー・足跡探し等）を設置し、英語版も提供した。



受付の様子



くじゅう連山自然情報

## (2) 館内展示および自然ふれあい事業

### ① 常設展示

- ・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は原則として英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示場所	更新頻度
お知らせコーナー	写真①	2階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	2階受付付近	随時
登山のルールとマナー	写真③	2階受付付近	年7回
観光情報コーナー	写真④	2階受付付近	年3回
展望コーナー周辺	写真⑤	2階展望室付近	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	2階受付付近	随時
実物展示	写真⑦	2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑧	1階壁面付近	月1回
くじゅう植物図録	写真⑨	1階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑩	1階入口付近	随時
キッズコーナー	写真⑪	1階階段横	年2回
くじゅうの自然を支える活動	写真⑫	階段ボード	年3回
チームタデ原活動紹介	写真⑬	階段ボード	年5回
登山道等整備活動紹介	写真⑭	階段ボード	年2回

### ビジターセンター2階

- ・2階はメインの入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。



① お知らせコーナー  
センターからのお知らせ等を掲示した。



② くじゅうの自然写真館  
くじゅう地域の旬な風景や動植物の写真を展示した。



③ 登山のルールとマナー  
登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や、注意点などの説明をした。



④ 観光情報コーナー  
国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）や写真などを使って紹介した。



⑤ 展望コーナー

雄大な景色を眺められるコーナー。望遠鏡のほかに書籍や新聞を置いて、くつろげるようにした。



⑥ くじゅう連山自然情報

マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報など問い合わせの多いものを館内に掲示した。



⑦ 実物展示

カヤネズミなどの実物を置き、動植物を身近に感じたり、小さな発見をしたりできるようにした。

**ビジターセンター1階**

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑧ ハンズオンコーナー

実物に触れたり匂いを嗅いだりすることができるハンズオンコーナー。くじゅうでみられるフクロウ、ミズゴケ、紅葉、マンサクなどの動植物のほか、化石や硫黄鉱山についても紹介した。



⑨ くじゅうの植物図録

くじゅう地域のボランティア団体、「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を季節ごとに入れ替えて展示した。



⑩ タデ原フィールドガイド  
今見られる植物や動物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手作りの解説付きで紹介した。



⑪ キッズコーナー  
自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

## 階段

- ・2階の入り口からの来館者がタデ原湿原や館内トイレに向かう動線上であり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。



⑫ くじゅうの自然を支える活動  
「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼き「パークボランティアの会」の活動、「九重の自然を守る会」の植物モニタリング調査を紹介した。



⑬ チームタデ原活動紹介  
九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介した。



⑭ 登山道整備活動紹介  
玖珠美山高校および久住高原農業高校が継続している登山道整備活動を、協力者とともに紹介した。



## クイズラリー・スタンプラリー

- ・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 268 人（前年度比 5%増）、スタンプラリーが 717 人（前年度比 12%減）であった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加前後の手指の消毒などを呼び掛けて実施した。学校関係など団体での利用が少なかったため、前年度に引き続き参加人数は少なかった。
- ・シートは日本語と英語の 2 種類を用意した。
- ・参加者に受付でオリジナルシールをプレゼントし、好評であった。



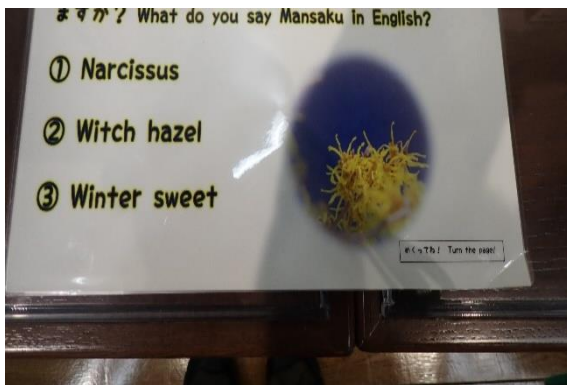
クイズラリー・スタンプラリー  
シート配布の様子



クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

## 展示の国際化対応

- ・企画展示を含む手づくり展示については、英語での解説を併記し、国際化への対応に努めた。



## ② 企画展示

- ・2階フロアや1階野焼き映像コーナー前で広い場所をとって比較的長期間実施する展示である。今年度は改修工事の影響で、7月～11月にかけて展示期間や展示場所がやや変則的になった。

展示内容	展示場所	展示期間
ミヤマキリシマの咲く山々	2階	令和3年4月17日～6月30日
入山公中川久清と大船山 ～くじゅうを愛し、くじゅうに眠る殿様～	2階	令和3年8月7日～11月11日
留学生から見た阿蘇くじゅう国立公園 (環境省くじゅう管理官事務所製作)	2階	令和3年11月17日～12月15日
2021 蔵出し写真展～職員が選ぶベストショット～	2階	令和3年12月17日～4年3月31日

## ミヤマキリシマの咲く山々

実施期間：令和3年4月～令和3年6月



くじゅう連山の8つの峰を取り上げ、それぞれ、ミヤマキリシマの風景の大判写真とともに山の特徴・登山ルート・近くの山・ミヤマキリシマ以外の花々の解説をおこなった。ミヤマキリシマが咲く季節に合わせたので、来館者はいろいろな山やルートがあることを確認できたようだ。期間中、改築工事の影響で展示場所や構成を変更した。

## 入山公中川久清と大船山 ～くじゅうを愛し、くじゅうに眠る殿様～

実施期間：令和3年8月～令和3年11月



8月にくじゅう連山を中心に開催された山の日記念式典への協賛として、江戸時代の岡藩主中川久清を取り上げた。久清が大船山のふもとに作らせた墓所は国指定史跡であり、入山公廟と呼ばれている。この展示では、知られる久清の生涯と大船山の登山ルートを紹介し、特に、歴史に関心の高い来館者はじっくりと解説を読んでいた。期間中、改築工事の影響で展示の配置等を変更した。

## 留学生から見た阿蘇くじゅう国立公園

実施期間：令和3年11月～令和3年12月



別府市の立命館アジア太平洋大学 (APU) の学生が、環境省との連携でくじゅうを訪れて研究・学習活動を行った際に感じたこと等をまとめたもの。環境省くじゅう管理官事務所が8月の山の日に合わせて製作したものを、時期をずらしてビジターセンター館内にも展示した。留学生の視点で見たくじゅうに触れ、来館者も新たな発見があったようだ。

## 2021 蔵出し写真展～職員が選ぶベストショット～

実施期間：令和3年12月～令和4年3月



令和3年1月～12月の間にビジターセンター職員および関係者が撮影した写真の中から、各月2枚を厳選して、解説とともに展示した。気に入った写真にシールを貼る参加型の活動を組み込み、多くの人がじっくりと眺めてシールを貼っていた。冬季で来館者の少ない時期にあたるため、より多くの人に見ていただくために夏季の展示よりも期間を長めにとった。

### ③ 自然ふれあい事業

#### タデ原の自然観察会

- ・九重の自然を守る会の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。
- ・令和3年度の自然観察会開催回数は47回、参加者数は延べ423人であった。12月に小学校の団体（115名）の利用があったために昨年度より増えているが、この1団体を除いて昨年度の緊急事態宣言中以外の期間と比べると、参加者数は昨年度同様に低調なままである。感染症拡大の影響が継続しているものと考えられる。

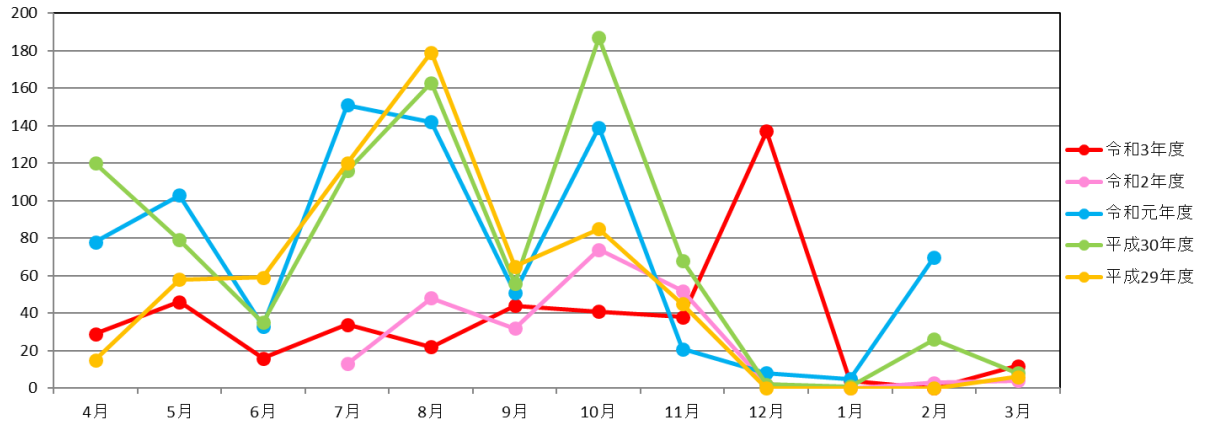


自然観察会の様子

自然観察会参加者数（平成29年度～令和3年度） ※斜線の月は中止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和3年度	29	46	16	34	22	44	41	38	137	4	0	12	423
令和2年度	/	/	/	13	48	32	74	52	2	0	3	4	228
令和元年度	78	103	33	151	142	51	139	21	8	5	70	/	801
平成30年度	120	79	35	116	163	56	187	68	2	1	26	8	861
平成29年度	15	58	59	120	179	65	85	45	0	0	0	6	632

自然観察会参加者数推移（平成 29 年度～令和 3 年度）



### 国立公園レクチャー

- ・ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説を行うもの。参加人数等に応じて、15～30分程度のレクチャーを行った。
- ・今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い屋外やシアタールームで人数を制限して実施することとした。新型コロナウイルスの影響及びシアタールームの改修工事のため、屋内を利用できない期間が年度前半にかけて続いたが、新型コロナウイルス感染拡大状況が落ち着き、シアタールーム改修工事終了後の10月～12月の利用は増加した。
- ・国立公園レクチャーの受け入れ回数は 10回（前年度比3回増）、利用者延べ406人（前年度比41%増）。



国立公園レクチャーの様子

令和3年度 国立公園レクチャー一覧

開催日時	団体名	参加者（人）
7月1日	日出町川崎小学校	56
10月8日	臼杵市立北中学校	63
10月8日	臼杵市立南中学校	29
10月28日	認知症の人と家族の会	25
10月30日	溝部学園短期大学	20
10月31日	溝部学園短期大学	16
11月6日	溝部学園短期大学	18
11月7日	溝部学園短期大学	20
11月27日	JATA	44
12月9日	由布市狭間小学校	115
合計	10 団体	406

## 視察研修対応

- ・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原湿原の自然環境などについて解説をおこなった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で関係機関からの視察は少なかった。
- ・令和3年度の受け入れ回数は6回、利用者数は延べ32名と、前年度（2回、14名）に比べて増加したが、新型コロナウイルス感染拡大以前の回数には回復していない。



環境省副大臣の視察



視察の際に展示を見る様子

### 令和3年度視察研修受け入れ事業一覧

開催日時	団体名	参加者（人）
7月6日	阿蘇火山博物館	3
7月7日	九州森林管理局	7
10月3日	阿蘇くじゅう国立公園サステナブルツーリズムのあり方検討会議	10
10月22日	環境省国立公園課	2
11月4日	環境省副大臣他	7
11月10日	雲仙地域ビジターセンター	3
合計	6 団体	32

## ④ 館内維持管理業務

- ・ビジターセンター館内は、朝または夕方にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃、展示のタッチパネルやエレベーターのボタンなどのアルコール消毒を毎日実施した。
- ・清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を2月に実施した。



日常清掃の様子



特別清掃の様子

### 3. 来館者アンケート結果

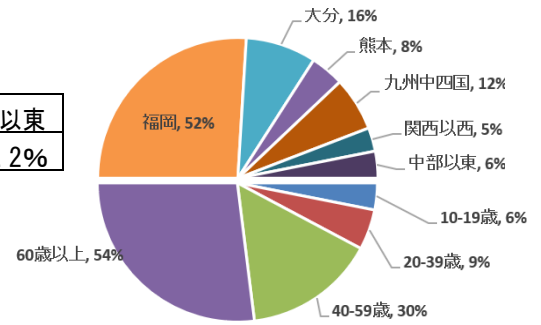
2021年10月23日～11月7日に来館者アンケートを実施し、期間入館者数の約1.2%にあたる129名から回答を得た。

(1) 回答者について

福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以东
51.9%	16.3%	7.8%	12.4%	5.4%	6.2%

20歳未満	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳以上
6.3%	9.4%	30.5%	53.9%



(2) 長者原を訪れた目的【複数回答】

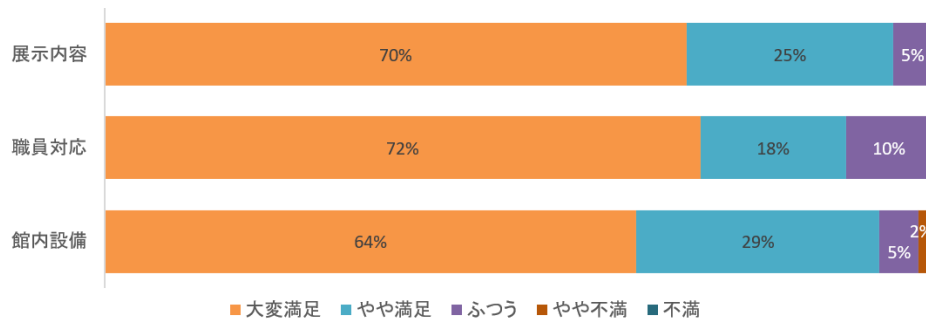
タデ原の散策	登山	ビジターセンター	偶然通りがかった	ツアーの一部	その他
61.2%	24.0%	11.6%	13.2%	2.3%	4.7%

(3) 来館回数

はじめて	2～3回目	4～5回目	6回以上
28.7%	25.6%	16.3%	29.5%

(4) 満足度について

	たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
展示内容	70.9%	24.5%	4.5%	0%	0%
職員の対応	72.0%	17.6%	10.4%	0%	0%
館内の設備	64.3%	29.4%	4.8%	1.6%	0%

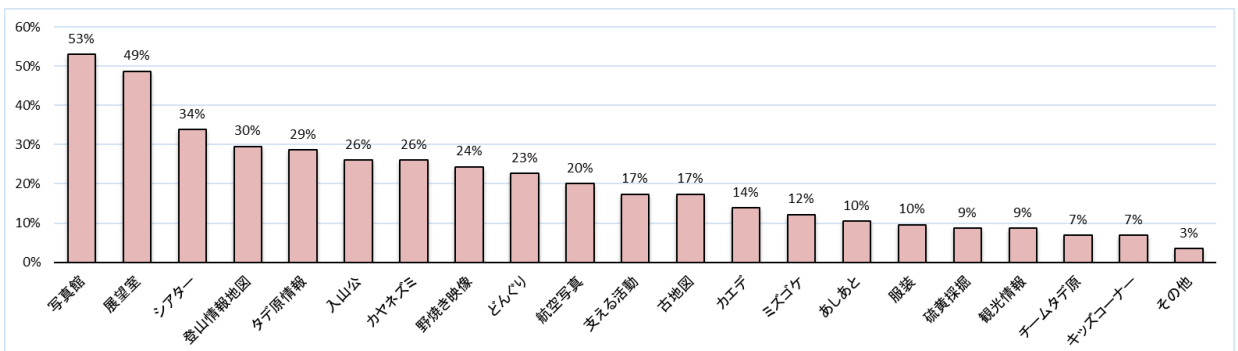


(7) 知りたい情報について【複数回答】(表は上位のもののみ)

花と植物	動物	登山情報	自然を守る活動	歴史や文化	温泉情報
78.7%	39.4%	37.8%	28.3%	26.8%	19.7%

(8) よかった展示について【複数回答】(上位のもののみ)

2F 自然写真館	2F 展望室	2F ハイビジョンシアター	2F 登山情報	1F タデ原情報	2F 入山公と大船山
53.0%	48.7%	33.9%	29.6%	28.7%	26.1%
1・2F カヤネズミ	1F 野焼き映像	1F どんぐり	1F 航空写真	1F 古地図	階段くじゅうを支える活動
26.1%	24.3%	22.6%	20.0%	17.4%	17.4%



(9) 回答者の主なコメント（抽象的なもの、重複した内容のものは省略）

【展示・情報提供】わかりやすい / 秋の中でも一日一日の様子がよくわかる / 自然界のバランスの良さがよく分かる / 1F 円形地図が良かった。写真も良い / 鑑賞できることやタッチパネルなどがあり楽しい。また写真がとてもきれい / 剥製の動物を置いてほしい / 動物を見れたり足跡がわかってよかった。もう少し動物の展示を入れてほしい / 前回子供が喜んだのでまた来ました。スタンプラリーが楽しいようです / 夜間の活動はぜひやってほしい、入山公の展示は個人的にすごく興味深かったのでそういった情報をもっと増やしてほしい / ドングリの4つの種類の見本がありよくわかりました / お天気情報教えていただき助かりました / ハイビジョンシアター3月に観た折に楽しめました / 四季折々の楽しい展示をこれからもお願いします / 毎回楽しみにしています。季節の展示が好きです / 登山好きの父が私の息子を連れていきたいということで来ました。クイズラリーやスタンプラリーも楽しめて3代で思い出作れて良かったです / 火山活動について詳しく知りたい / くじゅうの様子を毎日写真や文章でネットにあげてもらえると楽しいと思います / 近隣の自然環境がわかる写真の展示がもっと増えるとよい

【タデ原・花】初めて来ました。ススキ以外の時も来たいです / 場所もよく景色もよい。遠方ですが、6月花の季節に再訪したい / 以前来た時タデ原湿原の花に癒されました。いろいろな季節に来たいところです / 時々の花の紹介をしてくれるのがうれしいです / くじゅうの山には何度か登っていますが実はこちらの施設を訪れたのは最近です。わからない花の名前なども調べられとてもいい場所です / お花の名前を確認するために立ち寄りました。とても参考になりました

【職員対応・施設】優しく丁寧に教えてくれる / 話しやすく丁寧な対応でした / 話をちゃんと聞いてくれた / 声かけや目配りなどよくされていた / 程よい距離感 / 今の紅葉情報を教えてもらった / 使いやすい / キレイに清掃されている / 静かで清潔で心地良い / 音楽が流れていて館内も清潔で居心地がいい / 安全のことをしっかり考えられていた / タッチパネルなど最新の設備があり飽きない / コーヒーなど販売してあると外を眺めながらゆっくりできるし是非そういうサービスをお願いしたい / 座るところはあるがコーヒーが飲めるともっと良い / バリアフリーをお願いしたい / 電気自動車の充電スポットを駐車場に設置してほしい

【土産】また来たいです。グッズもステキでした / 周辺にチョコ等甘いものがないので置いてほしい

【その他・全般】今まで何度も来ていますが、いつ来ても快適で学ぶことが多いと感じています。ありがとうございました / 良いセンターだと思います / これからもくじゅうの色々な情報を楽しみにしています / いつもきれいで楽しく観ています。ありがとう / 楽しかった / また来たい

(10) 分析

・来館者について

例年同様、福岡・60代以上が多く、遠方・若年層が少ない。今年は特に福岡・リピーターが多く、近場の知っているところに出かける傾向があったのかもしれない。

ツアーによる来館者は少なく、令和2年度に引き続いて新型コロナの影響が見られる。一方、2年前まで秋には多くなかった「タデ原散策」が、昨年に続き多くなっている。山岳部の紅葉の終盤に重なり、登山目的の人もやや多くなった。

・展示内容について

平均スコアは例年とはほぼ同じである。館内の展示の中では「くじゅうの自然写真館」がこれまで同様評価が高い。内容はもちろんだが、アンケート設置場所の目の前にあることも影響しているかもしれない。展示ではないが、「展望室」はこれまで以上に高い評価を得た。改修の効果が表れたものと考えられ

る。展望室を用いていろいろな企画を考えるのもいいかもしれない。「入山公展」は、企画展としては評価が低かった。シニア層や一部の客からは評価があったものの、写真と文字だけであること、くじゅうの自然の紹介ではないことが敬遠された可能性が高い。人馬鞍のレプリカや、くじゅうを題材にした短歌コーナー、入山公への手紙、など、参加型の展示とするような工夫があれば良かった。

「足あと探し」や「キッズコーナー」などは、全体の評価が低くても、若い層からは高い支持があった。「硫黄山、ドングリ、カヤネズミ」といった実物展示も、若い層に人気が高かった。

コメント欄で、花の情報を評価する声が多かった。「タデ原情報板」も多くの人が見ており、今後もこの分野でいろいろな展示を工夫するといいいのではないかな。一方、動物についての展示を求める声もある。動物の実物展示は人気があるので、植物とバランスをとって出していきたい。

#### ・職員の対応や設備について

ここ数年、職員の対応が展示や設備に比べて評価が低いことが続いていたが、今回改善された。積極的なあいさつや会話、館内の案内をおこなった成果ととらえたい。

設備については、改修工事後にもかかわらず評価は高くならなかった。テラスがなくなったこと以外に来館者にとってマイナスの要素はないと思われるが、具体的な点はわからない。コーヒーや飲料の提供はほぼ毎回のアンケートで見られる要望である。「ここで買えます」といった表示を展望室に出すといいいのかもしれない。

#### ・知りたい情報について

例年同様に「花と植物について」のニーズが圧倒的に高く、「登山情報、動物、歴史や文化」がこれに続く。コメント欄で、紅葉情報やミヤマキリシマ情報についての声があった。これまで、受付カウンター周辺にイーゼルで出しているが、半常設のような形でコーナーをつくってもいいかもしれない。

「守る活動」に関連して、「くじゅうファンクラブの取り組み」のような、協議会の広報につながるものを検討したい。

アンケートでは、交通・観光・宿泊情報へのニーズは相変わらず高くない。受付カウンターで直接聞かれたり電話で問い合わせを受けたりすることは多いので、これらは展示として見るよりも直接問い合わせる対象という捉え方であろう。



## II. 教育・普及啓発活動

### 1. 普及啓発活動

#### (1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動

##### 牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：令和3年6月5日（土）7：00～9：30

令和3年10月30日（日）7：00～9：00

場 所：牧ノ戸峠登山口

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。
- ・早朝、登山者に向けて登山届の Web 上での提出、服装点検、持ち物確認、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など、向上すべきルールやマナーについてマイクを用いて呼びかけた。
- ・今年度は、ミヤマキリシマ開花時期と紅葉の最盛期に実施した。ミヤマキリシマ開花期は当日の気温が低く登山者は少なめだったが、紅葉時期のレクチャーでは多くの人が朝早くから登山口に集まっており、約300名が呼びかけに応じ、登山届を提出した。
- ・従来の紙による登山届と併せ、大分県警のHP やアプリ「コンパス」を用いた Web 上での登山届事前提出について普及に努めた。



6月の呼びかけの様子



10月の呼びかけの様子

**大分県の山を登山する方は、登山届を提出しましょう。**



**登山の際は、登山届を提出しましょう。**

- 登山予定の山を事前に調べ、体力・経験・技術等を考慮した余裕のある登山計画を立てましょう。(トラブルで日程が遅れることがあります。)
- 非常時のエスケープルートも計画しておきましょう。

**万が一に備え、万全の装備で登山に臨みましょう。**

- 携帯電話、懐中電灯、防寒具、非常食等を準備しましょう。
- 負傷防止、疲労軽減のため、必ず登山靴を履きましょう。
- 「もしも」に備えて山岳保険に加入しましょう。

**体調・天候が悪いときは、早めに引き返す勇気を持ちましょう。**

- 悪天候が予想される場合は、登山を中止しましょう。
- 体調不良者には、必ず付き添いを付けて下山させましょう。
- 十分な体力を付けてから登山に臨みましょう。



←Webを使った登山届の紹介

## (2) 広報活動

### ① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

令和3年度「最新情報」更新回数 22回

- 平成28年度に立ち上げたホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。
- くじゅうファンクラブホームページ内に、当協議会が運営する長者原ビジターセンターの紹介ページやくじゅうの歩き方をダウンロードできるサイトなどを設け、くじゅう連山の魅力や登山者に有益な情報を発信した。
- 「もっとくじゅうのために」の寄付サイトに寄付を頂いた団体を記載する最新情報（入会・寄付）を設け、どのような団体がくじゅう地域の保全に協力して頂いているか、一般の方も閲覧できるようにした。



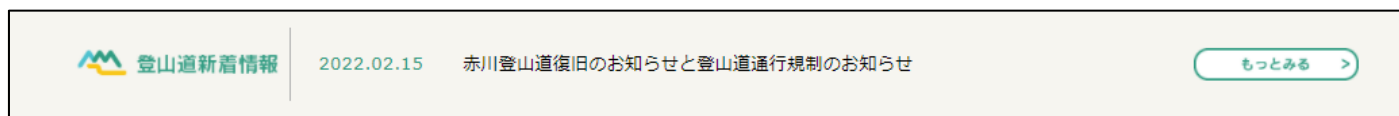
↑ 入会・寄付の最新情報

- 「くじゅうの歩き方」の「おすすめコース」を9つ追加掲示し、くじゅう登山の具体的なコース・周辺スポット・歴史について情報提供を行い、さらに英語でも閲覧できるようにした。

その他		
	春の野焼き	春の野焼きはなぜ行われるのか、野焼きの意義や方法などについて紹介
	活きている火山 くじゅう	活きている火山くじゅうについて、火山活動の歴史や火山の恵みについて紹介
	登山と山岳信仰の歴史	くじゅう連山の登山と山岳信仰の歴史について紹介
	くじゅうを愛したお殿様 入山公	大船山を愛した岡藩三代藩主の中川久清を紹介
	温泉も楽しめる登山口	くじゅう連山の登山口周辺にある温泉を紹介

↑ 新規掲載記事（一部抜粋）

- 令和2年度に「最新情報」コーナーに開設した「令和2年7月豪雨によるくじゅう連山の登山道の状況」バナーは登山道の復旧が進んだため削除し、新たにトップページに「登山道新着情報」を開設した。



↑ トップページに設けた「登山道新着情報」

- 協議会の事業として実施した登山道整備活動等のお知らせなど、くじゅうを守る活動等についても紹介した。

## ② くじゅうファンクラブ フェイスブック

令和3年度投稿回数：87回

- ・くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供するとともに、くじゅうに関心と持ってもらうことを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。
- ・フォロワーの人数は、年度当初の5,823人から令和4年3月末には6,366人へ9.3%増加した。
- ・投稿がタイムラインやシェア・検索などを通じて受け手に表示された数を示す「リーチ数」は、平均すると1回の投稿あたり3,871回であり、合計でのべ33万人に情報が届けられたことになる。リーチ数の最大は11,178回（5月29日、ミヤマキリシマ開花時期予想）で、他に紅葉情報、積雪情報、阿蘇山噴火情報等については特に多くの方が閲覧やシェアをおこなっている。
- ・英語のコメントやハッシュタグを併記することで、外国人からの反応も継続的にみられている。



## ③ くじゅうファンクラブ インスタグラム

令和3年度投稿回数 51回

- ・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で幅広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。
- ・今年も閲覧者が増加すると共に、順調にフォロワー数が伸びて1800人を超えた。
- ・特に紅葉の時期以降「いいね！」の数が増加し、1月の雪景色では最大655いいね！の反応があった。
- ・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、英語でのコメントを併記したことで、外国人利用者からもいいね！やコメント投稿などの反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立ったと考えられる。



#### ④自然情報の提供

- 植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、メーリングリスト登録者および近隣の観光案内所や施設に随時配布した。
- 令和3年度作成した自然情報は次の通り。
  - タデ原自然情報：4～10月に月2回、計13回
  - ツクシシャクナゲ開花情報：4～5月に3回
  - ミヤマキリシマ開花情報：5～6月に7回
  - 紅葉情報：10～11月に7回
  - マンサク開花情報：3月に3回
- タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。

**タデ原湿原 自然情報** 2021/8/31

長雨の後はずいぶん秋が来ているかと思いましたが、くじゅうでも昼間は連日30度を超える残暑となっています。タデ原湿原ではヒゴタイ、アケボノソウ、サワキキョウ、シラヒゲソウなど夏と秋の花々が入り混じって沢山咲いています。木道のすぐ脇にも沢山の花が咲き誇り、にぎわいを醸しています。  
新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の中、外出を控えている方もいらっしゃると思います。是非、この自然情報でタデ原湿原の季節を感じて頂ければと思います。



↑ 8月30日 サイヨウシャザン  
釣鐘状の小さな可愛い花です。



↑ 8月30日 ヒゴタイ  
丸い花は先端から咲いていきます。



↑ 8月30日 アケボノソウ  
咲き始めました。沢山蕾がついています。



↑ 8月30日 キセルアザミ  
頭を垂れた不思議な姿で咲いています。



↑ 8月30日 サワヒヨドリ  
小さな花が集まって咲いています。




↑ 8月30日 ツクシフウロ  
濃いピンク色が目を引きます。

令和3年6月4日  
作成：くじゅう地区管理運営協議会


**ミヤマキリシマ開花情報(vol\_4)**

調査日	場所	開花状態
6月1日	狛師岳 (1423m)	見ごろ
6月2日	黒岩山山頂付近 (1502.5m)	見ごろ
6月2日	大戸越周辺 (1457m)	見ごろ
6月2日	平治岳 (1643.0m)	7分～8分咲き


ミヤマキリシマの開花は順調に進み、現在標高1600mあたりで見ごろを迎えています。標高1500mあたりの黒岩山周辺でもまだつぼみも多く残っていて、まだまだ楽しめるそうです。  
平治岳山頂付近(1643m)では7～8分咲きで見ごろを迎えています。1700mぐらいの標高が高い扇ヶ原、三俣山、星生山や久住山などは咲き始めていて、天候にもよりますが1週間から10日後に見ごろを迎えると思われます。  
県境をまたぐ不要不急の移動を自粛されている皆さまや今シーズンのミヤマキリシマを見ることができない皆さま、このミヤマキリシマ開花情報をご覧になり、お楽しみください。  
くじゅう連山のミヤマキリシマ開花情報は、定期的にお送りします。お楽しみに！！  
タデ原湿原やくじゅう連山の最新情報については、Facebookもチェックしてみてください。  
<https://www.facebook.com/choujubaruvistor>




6/1 狛師岳山頂付近 ↑



6/2 黒岩山山頂付近 ↑



6/2 大戸越 ↑



6/2 平治岳山頂付近 ↑

#### ⑤「くじゅうだより」の発行

- くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年4回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。
- 多くの散策道や登山道に興味を持ってもらえるよう、コース紹介を積極的に行った。
- コース紹介の他に季節ごとのお勧め周辺スポットやくじゅうの歴史の紹介もおこなった。











## 2. 環境教育活動

### (1) チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～

- ・平成27年度にくじゅう地域で開催されたKODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。現在のメンバーは中学生2名、小学生6名の計8名（今年度3名加入）。
- ・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。
- ・今年度は昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、他の湿地との交流の機会を持つことが出来なかったことは残念であった。活動も感染対策を取るため主に屋外で行った。
- ・大分県で開催された山の日では多くの人前で活動発表を行った。昨年に引き続きタデ原湿原に「草こづみ」を復活させ、さらに自分たちが作った草こづみの干し草を近隣の畜産農家に運んで、牛に給餌する体験を行うなど、地域の方の協力を得て充実した活動を行うことができた。

令和3年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日	概要	参加者（人） ※スタッフ含む
4月10日	野焼き見学と野焼き棒の実験（昨年度活動）	9
6月27日	年間計画とタデ原半周	13
8月1日	山の日リハーサル①	10
8月10日	山の日リハーサル②	10
8月11日	山の日発表とミニ図鑑づくり	14
10月3日	草こづみづくり	15
12月4日	草こづみ運び・草寄せ・星空観察	17
2月19日	年間計画と新聞づくり	12
3月13日	野焼き見学と新聞づくり	8



山の日での活動発表



タデ原湿原で野焼きに向けた草寄せ



タデ原湿原で草こづみを作成



畜産農家へ干し草を運ぶ

## (2) 総合学習支援活動

協議会の会員である九重町及び竹田市で、小中学校の総合学習の支援活動を受け入れている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原について学んでおり、講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

### 九重町立飯田小学校 3年生

- ・8月30日（14名）
- ・タデ原湿原で飯田高原の「お宝」を探し、タブレットで撮影したあと小学校でビジターセンター職員が解説を行った。調べ学習や情報の整理分類、発信の仕方について学んだ。



タデ原でお宝を探す



タブレットを使用し、お宝を撮影



教室でビジターセンター職員の話聞く



後日、タブレットを使用して情報を整理・分析

### 九重町立このえ緑陽中学校 3年生

- ・10月21・22日（1名）
- ・職場体験学習。ビジターセンターで受付や自然情報収集、ゴミ拾い、ハンズオンコーナー展示の作成及び展示を行った。



ハンズオン展示の準備



周辺でみられるどんぐり4種類について展示

### Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

#### 1. 自然環境保全活動

##### (1) 外来種駆除活動

タデ原湿原には特定外来生物であるオオハンゴンソウが生育しており、坊ガツルにも数種の外来植物が生育している。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、駆除活動を支援した。

なお、例年協力している MS&AD ホールディングスによる外来種駆除活動は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、ボランティア募集の制限や実施の見送りとなった。



実施日	内容	主催団体	支援内容
7月17日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
7月22日	坊ガツル外来種駆除	九電みらい財団	用具貸出
8月8日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
8月22日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
8月28日～29日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
10月17日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
10月23日	オオハンゴンソウ駆除	飯田地区まちづくり協議会	用具貸出
10月24日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出
10月31日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
11月28日	オオハンゴンソウ駆除	九重の自然を守る会	用具貸出

##### (2) 美化清掃活動

例年7月下旬から8月中旬にかけて長者原周辺でおこなわれている自然公園クリーン作戦が、今年度は山の日記念行事の関係で7月12日から27日にかけて実施された。協議会としては、道具の貸し出しや軍手・お茶の提供をおこない、環境美化に協力した。

7月16日に大分県主催「山のトイレをキレイに使い隊運動」に職員が参加し、久住分かれに設置されている山岳トイレの美化清掃活動への協力を呼び掛けた。

10月27日に実施されたやまなみハイウェイ美化清掃活動（つながるひろがるやまなみハイウェイ実行委員会主催、道守九州会議ほか協力）に職員が参加し、瀬の本から長者原までの美化活動を行った。



##### (3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実行されている。今年度も野焼きを実行する各団体と連携しながら、防火用具の貸出を通じて野焼き活動を支援した。以下の野焼きについては、職員も参加し、飲料と軽食の提供もおこなった。

令和3年4月10日 泉水山・タデ原野焼き 飯田高原野焼き実行委員会主催

令和3年4月11日 大將軍・やまなみ沿線野焼き 飯田高原野焼き実行委員会主催

令和4年3月5日 沢水キャンプ場野焼き 竹田市主催

令和4年3月13日 泉水山・タデ原野焼き 飯田高原野焼き実行委員会主催



また、野焼きの課題を評価し野焼きを支援するためのヒアリングおよび検討会（飯田高原野焼き実行委員会主催、環境省グリーンワーカー事業）に参加した。

#### (4) 九重町自然環境保全推進委員会

年3回開催された九重町の自然環境保全推進委員会に委員として出席し、生物多様性このえ戦略の推進や、戦略に基づいた啓発活動の策定に協力した。

## 2. 調査活動

### (1) モニタリングサイト 1000 里地調査

環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査の調査地として登録されているタデ原湿原と沢水キャンプ場周辺において、植物のフェノロジー調査（3月～11月に毎月1回実施）にそれぞれ職員が参加するなどして協力した。



### (2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ歩道拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、2017年度より委員として参加している。今年度も、やまなみハイウェイ沿線の植物調査及び工事方法について検討する会議に次の通り出席し、調査等を行った。

- 第17回協議会および現地調査（6月10日）
- 法面伐採跡の植生モニタリング（9月29日）
- 第18回協議会および現地調査（10月8日）
- 第19回協議会（2月18日）



### (3) 希少種の調査・保全

おおいた生物多様性保全センターによる坊ガツル湿原周辺の花相調査に参加した。また、利用者負担の仕組み作りに資する希少植生調査業務を受託し、タデ原やくじゅう連山における希少種を含む代表的な植物の生育のようすと位置情報を記録してデータとして整理した。久住高原の希少植物生育地の花相調査（実施主体：久住高原みちくさ案内人倶楽部）にも協力する予定であったが、悪天候による日程変更のために参加できなかった。



イワギク（絶滅危惧ⅠB類）



ヨウラクツツジ（絶滅危惧Ⅱ類）

## IV. 登山道等管理活動

### 1. 登山道保全活動

#### (1) 登山道保全活動（主催事業）

- ・ 玖珠美山高校との登山道保全整備活動（牧ノ戸峠～扇ヶ鼻分岐）

くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、玖珠美山高校地域産業課 3 年生 21 名と、牧ノ戸峠～扇ヶ鼻分岐間の登山道保全整備活動を行った。

日時：11 月 8 日（月）＊9:45～13:00（雨天のため午前中で作業中止）

内容：登山道の水切り、ロープ柵やロープ交換、草刈り、土留めの修繕等の担当に分かれ、会員が作業指導を行った。

参加した当協議会会員及び関係者（全 27 名）：環境省くじゅう管理官事務所、大分西部森林管理署、大分県、竹田市、玖珠警察署、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブ、長者原ビジターセンター



#### (2) 登山道保全活動（正会員活動助成事業）

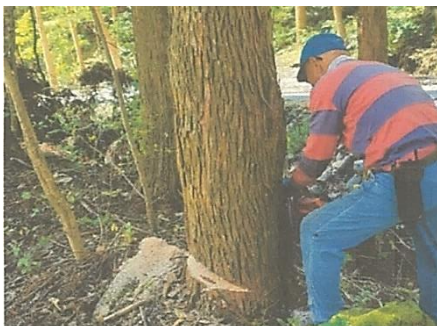
- ・ 当協議会の正会員活動助成事業として、以下の登山道保全活動の助成を行った。

ア 朽網分かれのヤマザクラ公園内の橋架け替え作業

実施者：NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部

日時：10 月 18 日

内容：朽網分かれのヤマザクラ公園内に設置してある木製の橋が劣化しているため、橋の架け替え作業を実施した。



## イ 指山登山道山頂付近の草刈り・登山道補修作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：8月7日、12月11日

内容：指山登山道の山頂付近の草刈り、枝払い、土留め修繕等を実施した。



### (3) 道標交換

・登山道の老朽化している道標について、新たに3基の補修・交換を行った。

本年度交換した道標および山頂標柱は次の通り。交換の際にはいずれもローマ字表記を併記し、外国人登山者にもわかりやすくなるようにした。設置は正会員に委託をして実施した。

ア 諏峨守越分岐（長者原・大曲、三俣山、北千里ヶ浜・法華院分岐） 設置：九重の自然を守る会

イ 法華院分岐（鉾立峠、諏峨守越、長者原・吉部分岐） 設置：(有)法華院温泉

ウ かぼちゃ道合流点（坊ガツル、大戸越分岐） 設置：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ



### (4) 登山道についての情報収集・情報提供

- ・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。
- ・寄せられた情報は、倒木、スズメバチ、久住分かれ携帯トイレブースの利用マナーや施設の破損状況についてである。久住分かれ携帯トイレブースの扉の破損や冬期の使用状況については、随時管理者である大分県・竹田市に連絡した。また、登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。

## 2. 長者原周辺の美化清掃活動

### (1) 清掃業務

- ・環境省から清掃を受託している長者原地区にある2つの公衆トイレについては、職員による日常清掃を行った。
- ・ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには1日に2回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、ドアノブ・便座・カラン等のアルコール消毒を行った。



公衆トイレ清掃の様子

## (2) 園地管理業務等

- ・長者原園地、駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動を随時実施した。また、タデ原周辺の自然歩道脇の草刈り、ビジターセンター横の防火線切りを実施した。
- ・長者原園地周辺の落ち葉の清掃を行った。
- ・積雪時には駐車場の白線が見えなくなるので、通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。
- ・各登山口においては、管理者による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いを行った。



園地のゴミ拾いの様子



センター横の防火線切りの様子

## (3) タデ原湿原木道の保守業務

- ・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、11月16日、20日に木道の周囲の防火線切りおよび草寄せの作業を行った。
- ・タデ原湿原木道を随時巡回し、異常箇所がないかどうか確認するとともに、ごみ拾いを行った。



防火線切り・草寄せの様子



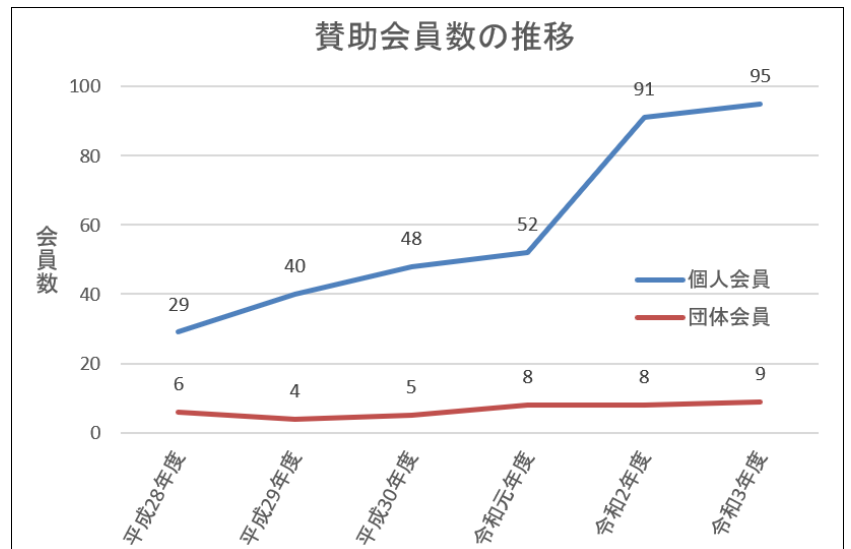
## V. その他

### 1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

#### (1) 賛助会員制度

- ・パンフレットの配布、関係団体の訪問などを通して、くじゅうファンクラブの活動に賛同する賛助会員を募った。昨年度、豪雨被害に対する支援として個人会員が大幅に増えた（前年度比 39 名増）が、今年度も減少することなく会員数を維持（前年度比 4 名増）できた。

- ・賛助会員数 個人会員：95 名  
団体会員：9 団体



#### (2) 寄付制度

##### ①募金箱の設置

- ・くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員の関係施設のうち、賛同していただいた施設に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。豪雨被害のあった令和 2 年度に比べると、募金額は減少した。
- ・募金箱への募金額 計 82,821 円（令和 2 年度 110,074 円、前年度比 25%減）

##### ②寄付金の申込

- ・パンフレットやホームページを通じて、くじゅう連山の環境保全のための寄付を募った。昨年度は、豪雨災害によるくじゅう連山登山道の甚大な被害状況が報道され、これまでで最多の寄付をいただいたが、今年度は令和 2 年度を上回る寄付額となった。
- ・内訳 個人寄付 11 件 98,000 円（令和 2 年度 11 件 171,130 円）  
団体寄付 4 件 162,240 円（九重・飯田高原観光協会、阿蘇くじゅう ROUTE プロジェクト、川筋山遊会様 他）（令和 2 年度 2 件 43,600 円）  
計 260,240 円（令和 2 年度 214,730 円）

##### ③環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プラン販売等からの寄付

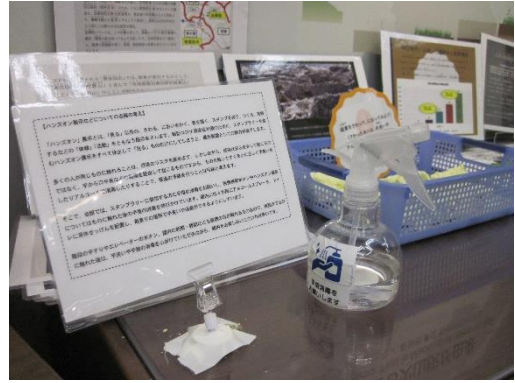
- ・令和元年度から始まったタデ原協力金付ツアーからの寄付を皮切りに、令和 3 年度も当協議会会員や国立公園満喫プロジェクト オフィシャルパートナーを中心に、環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プラン・飲料水等の販売が行われ、その利益の一部からご寄付をいただいた。
- ・協力金付ツアー・宿泊プラン・飲料水販売などからご寄付いただいた団体（順不同・敬称略）  
有限会社星生温泉（宿泊プラン：九重星生ホテル）  
やまはくうみはく協議会（ツアー事務局：大分朝日放送）  
一般社団法人日本旅行業協会（ツアーガイド：くじゅうネイチャーガイドクラブ）  
九重・飯田高原観光協会（ツアーガイド：くじゅうネイチャーガイドクラブ）  
九電産業株式会社（飲料水販売）
- ・協力金からの寄付金 計 389,780 円（令和 2 年度 357,180 円）


## 2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置

### (1) 長者原ビジターセンターの運営

#### ① 長者原ビジターセンターの運営

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境省担当官と協議のうえ、昨年度作成した新型コロナウイルス感染症拡大防止のための運営に関するガイドラインの見直しを随時行い、ガイドラインに基づいて運営を行った。
- ・長者原ビジターセンター入口に、検温計とアルコール消毒剤の配備を行い、マスクの着用を呼び掛けた。また受付にはビニールシートを設置して、飛沫による感染の予防をおこなった。
- ・清掃時には手すりや展示物など人の手に触れる部分のアルコール消毒を行った他、展示物には展示を触った後に手洗いやアルコール消毒の呼び掛けの掲示を行った。また自然情報の提供においては、自然情報をWeb上でも楽しんでもらえる情報提供を心掛けたほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、登山や散策時における予防策や感染を広げないための注意喚起を行った。



 **くじゅうファンクラブ (阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター Aso-Kuju National Park)** ...  
2021年5月9日


4月の終わりあたりから、寒い日や風の強い日が多くなっています。先日は山で雪が降り、ミヤマキリシマの花も凍えたようで、開花の進み具合は例年並みのようです。

新型コロナの「第4波」がおさまりません。大分県では、登山の自粛は呼びかけられてはいませんが、県境をまたいだ移動の自粛と、大分市および別府市では不要不急の外出の自粛が呼びかけられています。大分県の人口当たり検査陽性者数は、全国平均を大きく上回り緊急事態の東京並みであること、福岡県のそれはさらに大きく大阪・兵庫に次いで全国3番目の数であることを踏まえ、外出の際には徹底した感染予防策をとっていただければと思います。

ビジターセンターの開館は通常通りですが、団体での館内利用申し込みは当面の間中止させていただきます（屋外でのレクチャー対応は場合によっては可能です）。なお、一部改装工事のため、ご迷惑をおかけしますが、どうぞお許しください。

さて、昨年の豪雨以降通行止めになっていた「硫黄山道路」長者原～坊原間の土石の除去が4月に終わりました。今後も復旧工事が入るために引き続き通行止めですが、15日（土）より、土日のみ通行可能となるとの連絡を、管理者である大分県からいただきました。土石流のつめあとを見ながらの歩行です。気をつけてお通り下さい。

ちょっと堅い話ばかりになってしまいました泣 お花やアナグマの写真を見てどうぞなごんでくださいね～

 **くじゅうファンクラブ (阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター Aso-Kuju National Park)** ...  
2021年8月21日

全国的に新型コロナの感染拡大が止まらない中、大分県でも昨日知事の会見が行われ、対策に関する説明がありました。県民に対しては、不要不急の外出の自粛が呼びかけられています。詳しくはつぎのサイトをご確認ください。  
<https://www.pref.oita.jp/.../cov.../covid19-oita-030817.html>

くじゅうでは、現時点で登山道や駐車場の閉鎖はありません。タデ原温泉の木道も開放中です。長者原ビジターセンターは開館中ですが、18日から団体での予約を停止しています。でも、8月に入っていた教育関係などの利用予約は、行事そのものの中止によりすべてキャンセルとなりました。

「いまくじゅうに行っても大丈夫ですか？」という問い合わせが寄せられています。お答えとしては、いまのところ「大丈夫ですがお住まいの地域の要請などを考慮のうえ、感染予防対策をじゅうぶんにとってお越してください。」としています。「自粛」は「禁止」ではありませんので、「山での感染のリスクは低いしワクチンも接種したので自粛はしません」という方も、もちろんおられるでしょう。その際も、大分県や全国の状況を見ると、警戒はしていただきたいと思っています。

秋の紅葉の時期には、また違った表現ができるように願っています。今度こそ最後！（？）と思いながら何とか乗り切りましょう。写真はタデ原の花々と山です。

フェイスブックによる情報発信

#### ② 自然ふれあい事業の実施

環境省担当官と協議のうえ、昨年度作成した新型コロナウイルス感染症拡大時の運営に関するガイドラインの見直しを随時行い、下記のような運営を行った。

- 5月7日～6月13日 館内レクチャー事業の受け入れ中止
- 8月17日～9月21日 館内レクチャー事業の受け入れ中止
- 1月21日～2月20日 館内レクチャー事業の受け入れ中止

### 3. 長者原ビジターセンターの改修工事への対応

#### (1) くじゅう地区管理運営協議会（運営者）の対応

令和3年度に「令和2年度長者原ビジターセンター改修工事」（繰越）が行われ、飯田高原観光案内所との機能統合に向けた受付拡張、テラス部分を増床した展望休憩室の改修、着替え室の新設工事等が行われた。

工事期間中は館内物品の移動や利用者の安全配慮に努めるだけでなく、環境省と工事業者の定期的な打ち合わせに参加することで、工事内容や進捗状況について情報共有をはかった。また工事によってセンター内で利用制限や安全上の問題が発生する場合については、随時環境省と協議を行った。展示スペースを部分的に利用できない場合においても、環境省と調整を行い、工事のための仮囲いの養生ボードに展示をするなど、展示機能の維持に努めた。

5月28日から10月8日の期間は受付拡張工事のため、受付機能をビジターセンター1階へ仮移転した。受付機能の仮移転中も通常通り対面・電話・SNS等による情報発信業務を実施した。10月2日に拡張工事が完了したことから、10月8日に従来通り2階の受付スペースにて受付業務を再開した。

#### (2) 工事箇所及び期間 \*実際に供用ができなかった期間であり、厳密な意味での工事期間とは異なる

- ・2階入り口横着替えスペース 5月6日～8月17日
- ・1階風除室 5月10日～5月14日（期間中1階出入口使用不可）
- ・2階受付拡張工事 6月3日～10月2日
- ・2階展望室工事 6月8日～9月24日
- ・2階受付横事務室工事 8月17日～9月24日
- ・2階ハイビジョンシアター 8月17日～9月24日（期間中 室内でのレクチャー及び上映不可）
- ・エレベーター工事 8月17日～10月4日（～10月3日 1階トイレ及びキッズルーム使用不可）
- ・2階物干し室 8月17日～10月15日
- ・2階風除室 9月9日～10月4日（半分ずつ工事のため2階出入口は通常通り使用）



1階野焼きコーナーへ仮移転した受付スペース



受付の仮移転に伴い野焼き映像も一時的に移転



仮囲いの養生ボードを利用した展示



新しくなった2階受付スペース（10月8日～）

## 4. 職員研修実績

(1) 刈払機取扱者安全衛生教育

開催日時：令和3年7月7日 参加者：竹菴

概要：安全衛生特別教育として刈払機取扱者安全衛生教育を受講した。

(2) 初心者のための登山トラブル解消法～ファーストエイド編

(講師：日本山岳ガイド協会認定登山ガイド 安武秀年)

開催日時：令和3年9月22日 参加者：種村・大島・竹菴

概要：協議会職員は、自然情報収集や登山道巡視業務で登山道を歩く機会が多い。本研修は、業務中における職員のトラブルの予防と、登山者への適切な対処法を学ぶ目的で実施した。くじゅうとその周辺で活動する登山ガイドを講師に招き、登山の際の装備や歩き方、トラブルへの対応法、ケガをした時の応急処置・テーピング方法等について学んだ。

(3) 令和3年度九州・沖縄地域ESD推進計画 地域ESD・自然体験拠点等意見交換会

開催日時：令和3年10月19日～20日 参加者：竹菴

概要：九州地方ESD活動支援センター（EPO九州）主催の意見交換会に参加した。ESD推進の先進事例等について学んだ。

(4) 伐木等の業務に係る特別教育

開催日時：令和3年11月17日～11月19日 参加者：竹菴

概要：安全衛生特別教育として伐木等の業務に係る特別教育を受講した。

(5) 動物標本の作製を安全に進めるために（ZOOM開催）

開催日時：令和3年11月21日 参加者：竹菴

概要：西日本自然史系博物館ネットワークの関係団体主催の講習会を受講した。動物標本の作製時に注意すべき安全衛生対策等について学んだ。

(6) 大分ESDミーティング（ZOOM開催）

開催日時：令和3年11月26日 参加者：大島

概要：大分県でのESD取組の先進事例を学び、県内でのネットワーク構築について意見交換を行った。

(7) 阿蘇くじゅう国立公園観光促進意見交換会

開催日時：令和3年11月26日 参加者：種村

概要：環境省と日本旅行業協会国内旅行推進委員会が開催した意見交換会に参加した。スローモビリティなどの観光分野での先進的な取組について学んだ。

(8) 普通救命講習会

開催日時：令和3年12月17日 参加者：種村、大島、竹菴

概要：玖珠消防署において、普通救命講習会を受講した。従来のAEDや胸骨圧迫法の他、コロナ対策による変更点等について学んだ。

(9) 冬鳥の観察会

開催日時：令和4年1月15日 参加者：竹菴

概要：大分県自然観察連絡協議会主催の冬鳥の観察会（はさま多目的公園）に参加した。

(10) 九重町観光施設研修

開催日時：令和4年2月14日 参加者：種村、大島、竹菴

概要：令和4年度に九重町観光案内所の機能がビジターセンター内に移転する予定であることから、観光案内の協力体制構築のため九重町の観光施設について自主的に研修した。

(11) サイボウズセミナー（ZOOM開催）

開催日時：令和4年2月25日、2月28日 参加者：大島

概要：業務環境改善のため、職員間の業務スケジュール管理や情報共有ができるシステム（サイボウズ）導入に伴い、基本操作のセミナーを受講した。

(12) 野焼き講習会

開催日時：令和4年3月5日 参加者：竹菴

概要：飯田高原野焼き実行委員会主催の野焼き講習会に参加した。野焼きを行う現場を実際に見学し、野焼き時の安全管理等について学んだ。

(13) 日本生態学会第69回全国大会（ZOOM開催）

開催日時：令和4年3月14日～18日 参加者：大島

概要：日本生態学会第69回全国大会にリモート参加した。くじゅう関連のポスター発表で質疑を行い、半自然草原についてのシンポジウムに参加して草原のレガシー効果について学習した。

(14) シンポジウム「草原のつながり ～人と自然が織りなす歴史遺産～」（ZOOM開催）

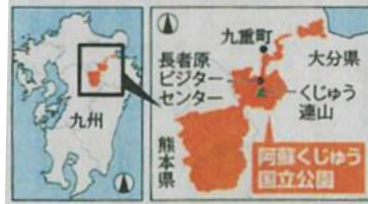
開催日時：令和4年3月27日 参加者：種村

概要：筑波大学山岳科学センターが主催するシンポジウムに参加した。全国に存在する草原の歴史と人間とのかかわりについて学んだ。

(15) 令和4年度新規採用職員研修

開催日時：令和4年3月26日～29日 参加者：又吉

概要：4月1日からの本採用に先立ち、勤務に必要な基礎的な知識や経験を得ることを目的に開催した。ビジターセンター業務や主要登山道の巡視、各登山口の確認等を行った。



阿蘇くじゅう国立公園の大部分を占める「九州の屋根」とも称されるくじゅう連山。登山道の二つ、牧ノ戸峠から久住山（1787m）へ向かう登山道で1月上旬、地元の高校生が石積みなどの保全整備活動に汗を流していた。

登山道を管理する環境省や県の担当者はじめ、地元の自然保護団体や森林管理署、警察署などからも27人が参加した。登山道づくりは愛です。でも、この地形や石を使っていることが大前提。大人の声に耳を傾けながら、生徒たちは故郷の山を守ろうと、豪雨に耐える土留めの修繕などに挑戦した。

## 阿蘇くじゅう国立公園

登山道で土留めの修繕作業を行う高校生。資材や道具の購入には利用者の協力が活用されている。



阿蘇くじゅう国立公園 熊本、大分の両県にまたがり総面積は7万2678ha。大カルデラにそびえる阿蘇山や、その北に連なるくじゅう連山などの火山群からなり、雄大でなだらかに広がる草原が特徴。

くじゅうネイチャーガイド

前身の組織から数える60年近くの歴史を持つが、地域課題に対しては官民連携し、機動的に動くようになったのはここ10年ほど。きっかけは相次ぐ豪雨災害や熊本地震（2016年）だった。

「点では対応できなくなり、地域として主体的に動く必要性を関係者が認識した」。協議会の事務局長でセンター長の種村英大さん（39）は振り返る。登山道は近年の自然災害で被害が相次ぎ、熊本地震で利用者は激減した。現場に近い同センターでは、役割の一つとして関係機関の情報集約と利用者への発信機能を高めていった。構成団体の一つ、くじゅうネイチャーガイド

# 管理支える利用者負担

官民一体の協議会

一番は初夏はシラカバが美しいミヤマキリシマ。秋は紅葉が彩り、牧ノ戸峠には年間8万〜10万人が訪れる。利用者が増えれば登山道には負荷がかかる。くじゅう地域では、その維持管理に利用者負担の仕組みをつくったことで注目している。高校生が用いた道具や資材にも、利用者による寄付が充てられている。活動がコーディネートするものが、1983年設立の「くじゅう地区管理運営協議会」

（通称「くじゅうマンナブ」）。行政や民間事業者、自然保護団体などで構成する任意団体で、環境省の委託で同地域の拠点施設「長瀬センター」を管理運営している。

## 有償ガイドや宿泊プラン

登山道の維持管理。くじゅう

「協議会がくじゅう全体の中核となり、情報が集中して活動しやすくなった」と語る。構成団体は毎年増え、現在は39団体になった。

災害復旧も即応

持続可能な発展に向けて、19年4月に導入されたのが利用者負担制度だった。ラムサール条約に登録されている「タテ原草原」を500円の協力で案内する有償ガイドをはじめ、協議会に名を連ねるホテルは協力金付き宿泊プランを設けた。20年度には合わせて約36万円が集まった。収益の主な使い道の一つが登山道の維持管理。くじゅう



協力金付きの有償ガイドツアーが導入されたタテ原草原

園への示唆に富んでいた。

日本の国立公園は最初の指定から87年たち、全国34カ所に増えた。豊かな自然の「保護」と「利用」の実現へ、それぞれ知恵を絞る姿は、候補地となる日高山脈横断国立公園への示唆に富んでいた。

「2面」に「インタビュー」

取り組みはまた始まったばかりだが、同国立公園くじゅう管理事務所の高橋貴之管理官（43）は「保全活動に関わる間口を広げ、思いを持った人を受け入れている。一つひとつの課題をクリアして一歩一歩、望ましい方向に向かっていく」と手応えを語る。

連山では登山道の8割に管理者がいない。関係団体と協議して、利用者が多いコースは行政機関が管理を検討する一方、同協議会など民間も維持管理に協力することで合意した。

この体制ができたことで、20年7月に九州を襲った豪雨災害では、被災した登山道の簡易復旧作業を同協議会が各団体に委託、被災からわずか2カ月足らずで倒木を撤去して道しるべのテープを張り付けた。

玖珠美山高生 登山道を補修

くじゅう連山で

【九重】玖珠美山高地域産業科の3年生21人が8日、九重町のくじゅう連山で登山道の補修をした。卒業記念の一環。

環境省と原簿、九重の自然を守る会などから指導スタッフ27人も参加。スコップやロープなどを持った生徒たちは、牧ノ戸峠登山口



登山道を補修する生徒ら（姫野直也）

から4班に分かれて進んだ。約1・2分間で草を刈り、登山道が崩れるのを防ぐ板を設置した。

後藤幸嗣さん（18）は「荷物を持って登るのは大変だったが、登山客に喜ばれてうれしかった。多くの人が安全に楽しんでほしい」と話した。

↑ 北海道十勝毎日新聞 令和3年11月25日（木）

← 大分合同新聞 令和3年11月25日（木）

## 6. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1,700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原

### 【位置図】



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934年（昭和9年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha）

## 7. 運営体制

### 事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

### 事務局員

種村 英大（事務局長）

大島 和伸

竹菴 明日香

伊東 宗喜（令和3年4月1日～令和3年8月15日）

九重町商工観光課自然環境グループ

井上 隆史

帆足 ちひろ

### くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、由布市、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、釜ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、やまなみ観光株式会社(レストハウスやまなみ)、有限会社法華院温泉(法華院温泉山荘・法華院温泉別館花山酔)、株式会社おおいた観光サービス(オーベルジュ・コスモス)、九重森林公園株式会社(九重森林公園スキー場)、九重の自然を守る会、有限会社星生温泉(九重星生ホテル)、一般財団法人セブーン・イレブン記念財団(九重ふるさと自然学校)、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、株式会社牧の戸(牧ノ戸峠レストハウス)、寒の地獄株式会社(寒の地獄旅館)、株式会社まきのとコーポレーション(九重観光ホテル)、飯田高原観光株式会社(長者原ヘルスセンター)、有限会社みやま商店(モンベルルーム くじゅう長者原店)、株式会社エルランチョ・グランデ、大分県農業協同組合(飯田高原ドライブイン)、有限会社くじゅう倶楽部、九重ヒュッテ、大分県立九重青少年の家、飯田高原デザイン会議、株式会社橋本建設(スパ・グリネス)、株式会社ア・マ・ファソン(オーベルジュ・ア・マ・ファソン)、株式会社星野リゾート(界 阿蘇)、有限会社吉武建設(くじゅうやまなみキャンプ村)、株式会社レゾネイト(レゾネイトクラブくじゅう)、公益財団法人九電みらい財団、一般財団法人 TAO 文化振興財団 (TAO の丘)、くじゅう地区パークボランティアの会

(敬称略・順不同)

### くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州電力株式会社 (八丁原発電所)、九州林産株式会社林業部、大分県高等学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟、福岡県中学校体育連盟、公益社団法人ツーリズムおおいた、株式会社共栄フーズ(くじゅう花公園)、九重町観光協会、駒木小児科クリニック

(個人会員を除く、敬称略・順不同)





**くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)**

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課

【事務所】長者原ビジターセンター

【所在地】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kujufanclub.com/>

【Facebook ページ】<http://www.facebook.com/choujabaruvisitor/>

**長者原ビジターセンター**

【住所・電話】上記に同じ

【開館時間】9:00~16:00 (5~10月は9:00~17:00)

【休館日】年末年始(12月29日~1月3日)のみ

【入館料】無料

発行 / 令和4年3月31日